

## 人吉下球磨消防署（普通科体育コース）

私は、4月から、出身地である人吉下球磨消防署へ就職します。

テレビのニュース番組で消防隊員の方々が、火事の現場で消火に当たっていらっしゃる様子や東日本大震災や九州北部豪雨など自然災害の現場で、人命救助に当たっていらっしゃる様子を見て、その人命救助という仕事に憧れを抱きました。「他人の役に立つ。」仕事、「他人の為になる。仕事」です。

私は、私が生まれ育った地元でそういった仕事に就きたいと考えました。また、2年半のとても厳しかった部活動で身に付けた知識や体力を生かせる仕事ということで「消防士」という仕事を選択しました。

試験は、一次試験と二次試験に分かれています。まず、一次試験では、教養試験や作文、性格検査などの筆記試験が行われ、その後に体力テストと身体測定がありました。

教養試験は、一般にいう一般常識の試験です。範囲も広く、問題も一筋縄ではいかないようひねってあったりして、勉強するのに大変な苦勞をしました。3年生になり、すぐに公務員課外を受講し始めました。6月の高校総体終了までは、部活動との両立にも苦しみました。高校総体後は、気持ちを切り替え勉強一筋に打ち込みました。自分で言うのも「如何なものか?」と思いますが、うまく切り替えることができました。

朝は、公務員課外を毎日きちんと受講し、復習に力を入れました。昼休みや放課後は、数学の篠原先生、理科の中村先生のところに通い、徹底して問題演習に励みました。夜は、自宅で決まった時刻に学習を始め、決まった時間だけ、毎日問題に取り組みました。夏休みは、壺溪塾の講座を受けに熊本まで毎日通いましたし、図書館へ行って静かな環境の中で集中力を持って取り組みました。また、電車通学でしたので、電車の中でも時間を有効に使いながら勉強に励みました。問題はとても難しく、学習することが苦痛になり、になることも何回もありました。いっそのこと諦めてしまおうかと思ったことさえありました。しかし、「消防士になる。」という夢を必ず実現させたいと思い、必死で頑張りました。仲間や家族、先生方の応援にも励まされ頑張り抜くことができました。

試験当日は、受験者が思っていたよりも多く、とても緊張しましたが、これまでの努力や自分の力を信じて、自分の力を出せるように取り組みました。自分を信じるしかないのです。信じ切れる自分に成長するしかないのです。

体力テストでは、腹筋や背筋、腕立て伏せなどがありました。部活動で鍛えていただいていたのでしっかりとできました。

1か月後に合格通知が届き、二次試験の受験資格を得ました。二次試験は、面接とグループディスカッションでした。面接は、学校で多くの先生方に指導していただいたお陰で、少し緊張はしましたが、自分や自分の考えをしっかりと伝えることができましたと思います。学校では、多いときには、1日に3～4名の先生方にかなり長い時間を掛けてご指導いただきました。自分から積極的に面接の練習のお願いに行くことが大切です。お忙しい中にも先生方は時間を作りご指導くださいます。是非、皆さんも積極的に先生方におねがいをしてみてください。

グループディスカッションは、10人で円を作って座り、4つのテーマについて、司会を付け、挙手制で行われました。10人の中で女子は私一人だったので、とても心細く、今までにないくらいに緊張しました。途中で頭が真っ白になってしまうこともありましたが、「あれだけの回数練習したのだから大丈夫」と自分に言い聞かせがんばりました。

試験は全て難しく、競争率も高かったため、本当に大変でした。実際、筆記試験範囲を全て終わらせるのは無理でした。時間が足りず全てが切羽つまった状態でした。なのでこうならないためにも公務員を目指す人は今のうちから教材を見るだけでも勉強しておいた方がいいと思います。

合格した時は、本当にうれしくて、達成感はものすごいものでした。消防士という世界は男性社会なので不安な面はたくさんあります。しかし、女性にしかできないこともあると思います。6ヶ月の消防学校でしっかりと自分を鍛え、自分にできることを精一杯こなし、人のため、地域のために働くことのできる立派な消防士になりたいです。

1、2年生のみなさんも、夢実現のため今のうちから考え、悔いの残らないよう頑張ってください。